

「香港中文大学インターナショナルサマースクール（中国語コース）参加報告書」

京都大学法学部2年 守本萌

この留学が私にとって、初めての留学であった。3週間という短期ではあったが、私にとって、とても貴重な経験となった。

このプログラムに参加してよかったと思う主な要因は、さまざま地域の学生が参加し、英語ではなく、中国語を学ぶということである。主に日本人が多かったが、ヨーロッパ圏からも多数参加していた。ヨーロッパ圏からの学生は英語がネイティブではないが、言語がとても堪能で英語も不自由なく操る。ヨーロッパ圏の言語はほとんど網羅したため、次はアジア圏の中国語を学ぼうといった学生が多かった。そのため、彼らの語学の学び方や姿勢から、得るものはとても多かった。

まず、授業を受ける姿勢が変わった。基本、先生と生徒の掛け合いの授業。先生の言ったことをリピートしたり、先生の問いに対して積極的に発言していく。はじめはなかなか発言ができなかった。私と同じように、他の日本人の生徒も最初はあまり発言しなかった。しかし、ベルギー人の学生が、授業終わりに「日本人はシャイすぎるよ。もっと発言して、授業を盛り上げてくれよ。みんなで先生を助けよう。」と私たちに言った。私は本当にその通りだと思った。そして、このようなことを言われる自分が恥ずかしかった。それからは、少しでも発言しようと必死になった。授業が中国語と英語で進められることもあって、とても必至になって先生の言葉に耳を傾けた。こんなに神経を使って授業を受けたのは初めてであった。

ヨーロッパ圏の学生の授業を受ける姿勢からは、得るものがとても多かった。彼らはとても積極的に発言したり、質問していた。授業が中断することも気にせず、自分が理解することにとっても貪欲だった。来年からヨーロッパに留学する私は、クラスメートの授業に対する姿勢をみて、私もあのように授業中でもハングリーに、少し自己中心的すぎるくらい、くらいついていかなければならないと思った。さまざまな国の人と授業を受けたことはとても、良い経験となった。

この留学で、外国語を学ぶ自信がついた。今まで、バイリンガルやトリリンガルは帰国子女や特別な教育を受けてきた人だけだと心のどこかで決めつけていた。しかし、他国の学生を見てみると、トリリンガル以上の学生がたくさんおり、またそれが特別ではないことを痛感した。日本人でも、5か国語を話せる学生もいた。多言語話者は、努力でなれるのだと分かった。自国でさまざまな言語を使う機会が豊富にあるという土地柄もあるが、ネット社会の現代、日本でも他言語を話す機会は与えられている。これからは、より一層努力して外国語を使えるようになろうと決心した。そして、まだ進路は決まっていらないが、言語を理由に進路の選択の幅を狭めることはしないようにしようと思った。

今回のプログラムで得た最大のものは、外国語を学ぶことに対するモチベーションである。もちろん、3週間みっちり中国語を勉強することで、語彙力やリスニング力は上がった。しかし、それ以上に、これからも中国語を勉強し、中国語を使えるようになろうと思えるようになったことが大きかった。これからも、専門と並行しつつ語学の勉強にも力を入れていきたい。